

環境経営レポート

(令和 2年 9月 1日～令和 3年 8月31日)



日本庭園と白龍神社(北港リサイクルセンター)

令和3年11月13日作成



株式会社 昇 和



<https://www.showa.company/>

目	次	ページ
1	当社の理念	3
2	経営課題とチャンス	4
3	SDGsへの当社の取り組み	5
4	環境経営方針	6
5	活動状況グラフ	7
	(1) 全社の売上高推移	7
	(2) 産廃処分量の推移	7
	(3) 電力使用量の推移	8
	(4) 燃料使用量の推移	8
	(5) ガソリン使用量の推移	9
	(6) 収集運搬車両の燃費推移	9
6	取組の対象組織・活動	10
	1) 組織の概要	
	(1) 事務所名および代表者名	(2) 所在地
	(3) 環境管理責任者及び担当者	(4) 事業の内容
	(5) 資本金	(6) 売上高
	(7) 組織図	(8) 法人設立年月日
	2) 許可・登録の内容	11
	(1) 産廃業	(2) 建設業
	3) 事業の規模・施設等の状況	11
	(1) 従業員数	(2) 事業所敷地面積
	(3) 車両	12-13
	(4) 主要設備	14
	(5) 処理工程図	15
	4) 処理実績	15
	5) 廃棄物処理料金	15
	6) 解体工事实績	15
7	環境目標とその実績	16
	7-1 環境目標	
	【全社】	16
	【北港と西向島リサイクルセンターの合計値】	17
	【解体業工事関係】	17
	7-2 環境活動の実績と評価	18
	【全社】	18
	【北港と西向島リサイクルセンターの合計値】	19
	【解体業工事関係】	20
8	主な環境活動計画の内容と取組結果の評価	21
9	環境・安全への取組み	22
10	主な環境関連法令への違反、訴訟等の有無	23
11	有資格一覧	24
12	総括（代表者による全体評価と見直し・指示）	25
13	次年度での取り組み	26

1. 当社の理念



Bond of a soul — 魂の絆 —

私たち「昇和」が一番大切にしていること、それは“絆”。

お客様との絆、パートナーとの絆、社会との絆、そして、なにより大事にしているのが、社員ならびに社員同士の絆です。

社長を筆頭に、全員が同じ方向を向き、同じ目標を持って進むためにも、それぞれが強固に結びつき、魂と魂の絆を深めています。

そんな“魂の絆”を結ぶためには、互いの信頼関係を何よりも大事にして、何時いかなるときも決して裏切らず、いかなる仕事に対しても常に真摯な態度で臨み、全員一丸となって仕事に取り組んでまいります。

信頼とは、一朝一夕に築き上げることはできません。ほんの一瞬で崩れ落ちていく怖さとその危うさを知っているからこそ、私たちは一度結んだ“絆”を緩めないため、皆様との信頼関係を保ち続けることに全力を尽くしています。そうした盤石の信頼関係の上に結ばれた絆こそ、心の奥底で結びついた、まさに“魂の絆”といえるのではないのでしょうか。

何よりも強く揺るぎのない「魂の絆 — Bond of a soul —」で結ばれた私たち「チーム昇和」は、古くからの慣習に縛られたこの業界に新たな革新を起こすために、誇りと自信を持って只ひたすらに邁進してまいります。

2. 経営における課題とチャンス

当社の主力事業である解体業は、少子高齢化が進んでいますが、一方で地球温暖化の影響と考えられる集中豪雨、大型台風など、自然災害への対応、気候変動に対応したインフラの整備のニーズの高まりで、ますます受注が増加していく見通しです。

また、SDGsの課題解決を重要な経営課題と捉え、事業活動・企業活動を通じて、国際社会が追求する社会課題の解決に貢献することで企業価値の向上と持続的な社会の実現に取り組みます。

そのような中で、環境と安全につねに最大限の配慮を行うことこそが、企業価値を高めるということを肝に銘じているところです。

	課 題	チ ャ ン ス
外 部 要 因	東南海大地震等大規模災害リスクへの対応 人口減少に伴うインフラ投資の減少 発注元の要求内容（ニーズ）のレベルアップ 電力・燃料費の上昇 解体業・廃棄物処理関連の法令改正	BCP計画の作成と周知 脱炭素社会に向けたインフラ整備事業の増加 25年万博に向けたインフラ投資の増加 社員教育の充実・設備の老朽更新 省エネ設備投資・低燃費車両の導入の積極推進 業界団体あがての解体業者のイメージアップ推進
内 部 要 因	人材不足 人件費の上昇 重機・車両の老朽化 処理施設の老朽化 施設の稼働率低下 技術力の維持・向上 労働災害発生 工事現場・収集運搬車両の事故発生 社員の高齢化	高業績の維持で優秀な人材確保 実績主義の賃金体系 低燃費重機・車両への更新 積極的な設備投資 優良解体業者の評価維持・向上で受注量確保 社内講習・外部講習・公的資格取得の奨励 定期的な安全教育・過去や他社の事例研究 工事現場の状況確認を毎日実施 エコドライブの定期教育実施 本人の意欲と健康を重視した雇用

SDGsへの取り組み内容は
次ページにまとめました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



3. 株式会社 昇和 SDGs への取り組み



SDGs「Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標」は、2015年に国連で採択された、豊かで活力ある未来をつくるため17の目標・169のターゲットを定め、2030年までの達成を目指す世界規模の取り組みです。

当社はSDGsの課題解決を重要な経営課題と捉え、事業活動・企業活動を通じて、国際社会が追求する社会課題の解決に貢献することで企業価値の向上と持続的な社会の実現に取り組みます。



・廃棄物の削減 100%リサイクル

- ・ 弊社のリサイクルセンターではコンクリートがれきは破碎・異物の除去後、高品質な再生砕石となり道路の路盤材やメガソーラーの基礎等にリサイクルされます。
- ・ 木くずは破碎・異物の除去後、製紙原料や燃料チップにリサイクルされます。
- ・ ALCは破碎・異物の除去後、土壌改良材にリサイクルされます。
- ・ 建設発生土（残土）は粒度の調整・異物の除去後、建築現場での埋戻し材や採石場開発跡地等の緑化事業にリサイクルされます。
- ・ 解体工事現場においては徹底した分別解体・適切な処理を行い、マニフェストにて産業廃棄物の管理をしています。



・CO2排出削減の 取り組み

- ・ 弊社10tダンプにおいてはランゲンドルフ社製のベッセルを導入し、空車時は1.5tの総重量の低減により燃費効率の向上、積載荷重は通常の8.4tから9.9tへと1.5t増え、運行回数を低減する事によりCO₂排出削減に貢献しております。
- ・ リサイクルセンターの重機の燃料には、従来の軽油よりCO₂排出量を8.5%削減可能なGTL燃料を使用しております。



・緑化事業への 取り組み

- ・ 弊社、北港リサイクルセンターでは建設発生土（残土）の受け入れを行っており、粒度の調整後、異物の除去を重機だけでなく人力でも行い、品質の良い土だけを弊社岸壁より環境負荷の少ない海運を主体とし、各方面の採石場跡地等の緑化事業に携わっております。



- ・ これらの目標を、全社員、協力会社一丸となって推進し、目標を達成してまいります。

4. 環境経営方針

私たちは、美しい地球環境を守り次世代へ伝えていくことの大切さを常に考え行動します。

私たちは、全社一丸となって、解体工事から産業廃棄物の収集運搬・処分及び再資源化業務を通じて、建設廃棄物のリサイクル率向上・環境負荷低減を進めることにより、環境経営の継続的改善を行い、循環型社会形成に貢献します。

1. 企業の社会的責任を果たすため、企業倫理を守り、法令及び関係先からの要請を遵守し、社会に貢献していきます。
2. 地球環境の維持・向上に寄与するため、事業活動の環境目標及び行動計画として下記の重点項目を設定します。
 - ① 解体工事など建設工事に伴って発生する産業廃棄物および自社で発生し又は受託した産業廃棄物の分別・選別とゼロエミッションの推進
 - ② 災害時の廃棄物処理の率先推進
 - ③ リサイクル施設の電力原単位低減と建設機械および運搬車両等の燃費向上による二酸化炭素排出原単位の低減
 - ④ 騒音、振動および粉塵発生の低減による環境に配慮した作業の促進
 - ⑤ 雨水の有効利用および効果的な散水実施を通じた用水量の削減による総排水量の削減
 - ⑥ 事務用品を中心としたグリーン購入の推進
 - ⑦ 本業において顧客等の環境協力を得て、再生品の品質向上を進めた販売強化
3. 環境コミュニケーションを通じて、環境活動の状況を内外に伝達します。
4. 全従業員に、この環境方針を周知します。

制定日 平成25年 3月29日

改訂日 令和 3年 4月 1日

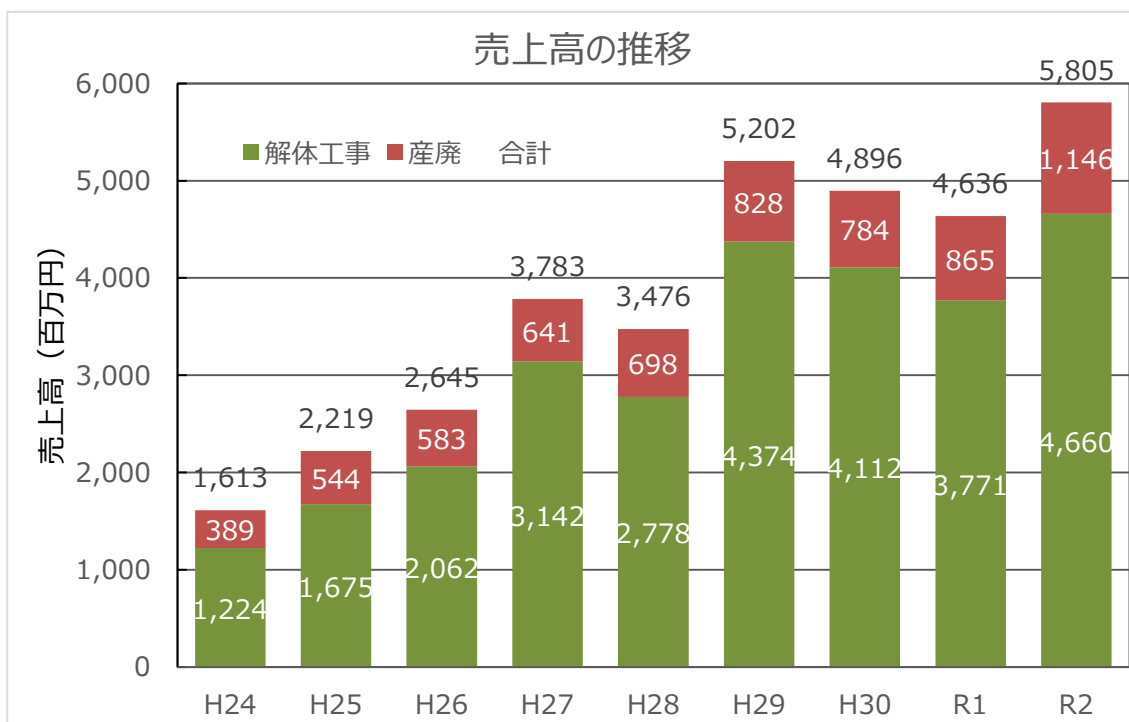
株式会社 昇 和
代表取締役 佐藤 昇

署名 佐藤 昇

5. 活動状況のグラフ

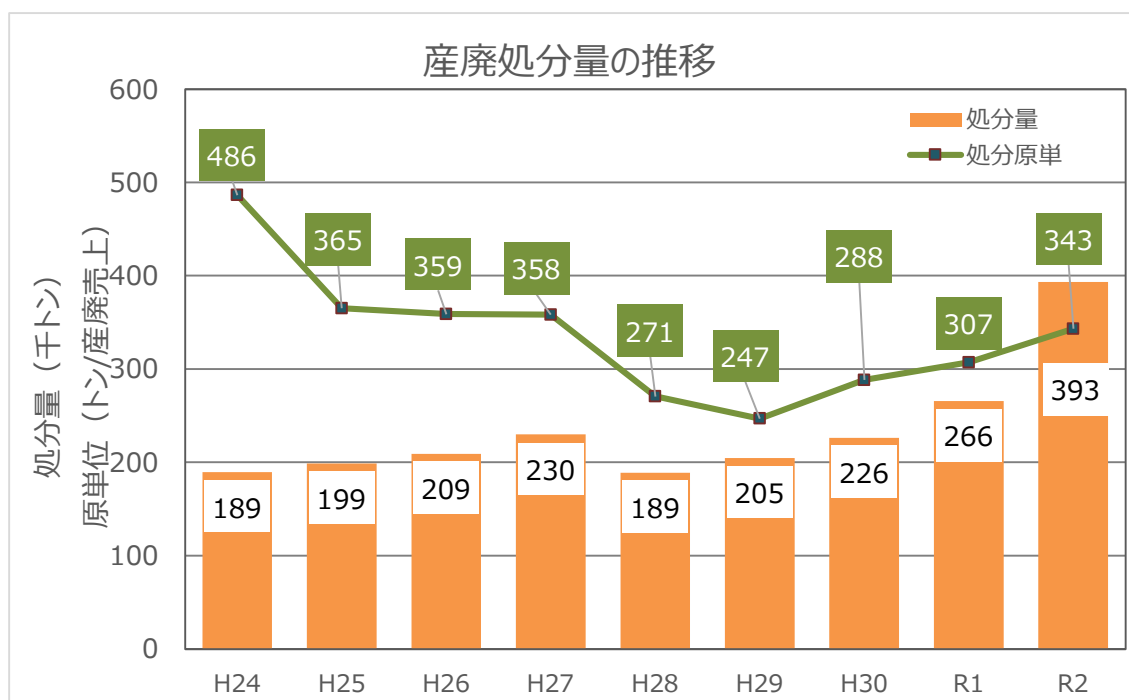
(1) 全社の売上高推移

売上高は、当社の解体工事への信頼度が高く施工依頼が大幅に増加し過去最高になりました。



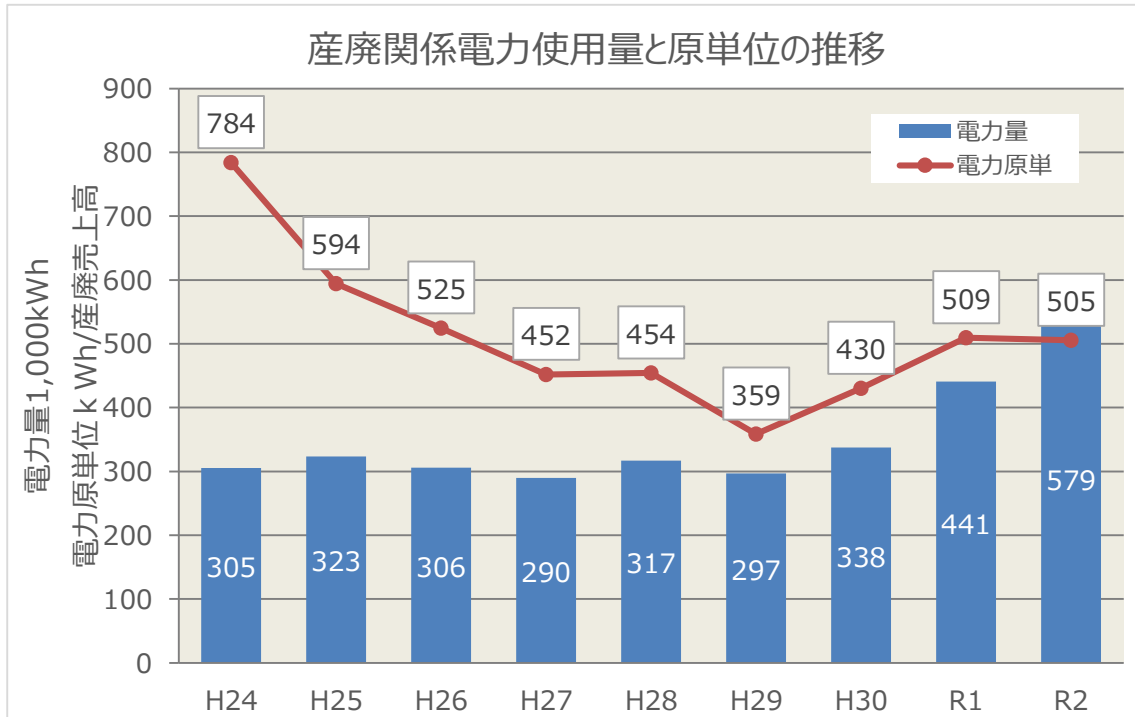
(2) 産廃処分量の推移

解体工事から排出されるコンクリートがらを中心に処理を行ってきました。北港リサイクルセンターの設備が通期で寄与したため、処分量が対前年比約48%増加となりました。



(3) 電力使用量の推移

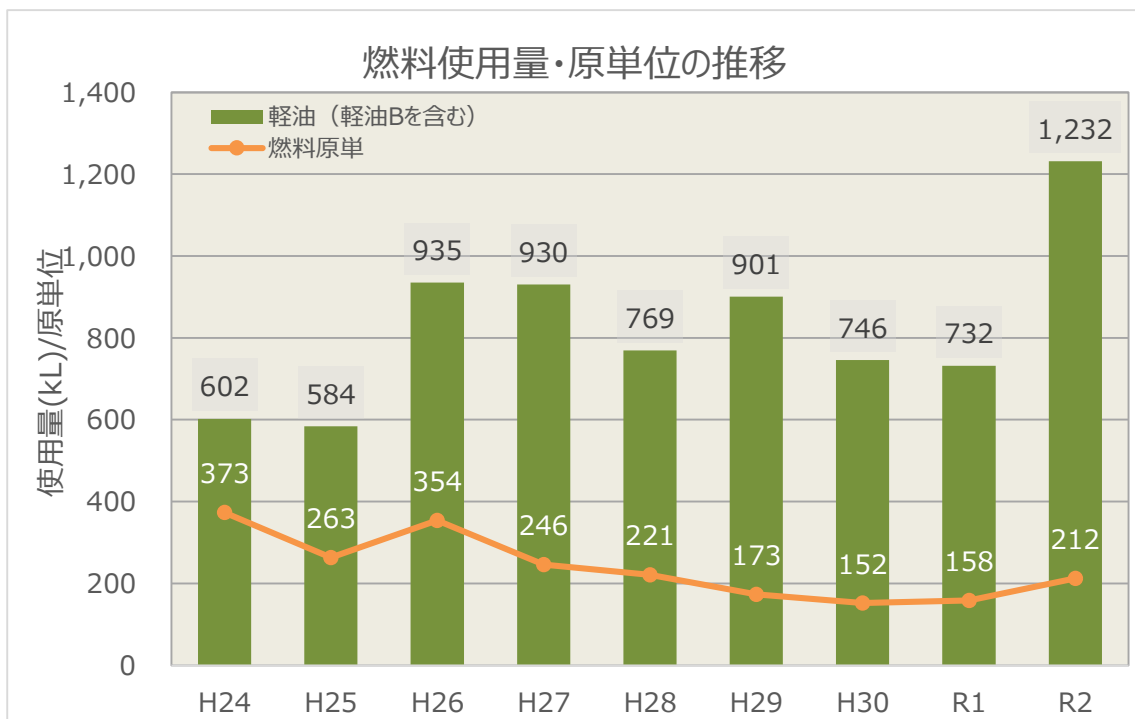
令和2年度の電力原単位は、北港・西向島リサイクルセンターでほぼフル稼働状況で処分を行いました結果、産廃関係売上高当たり前年比1%減の505kWhとほぼ横ばいとなりました。



(4) 燃料使用量の推移

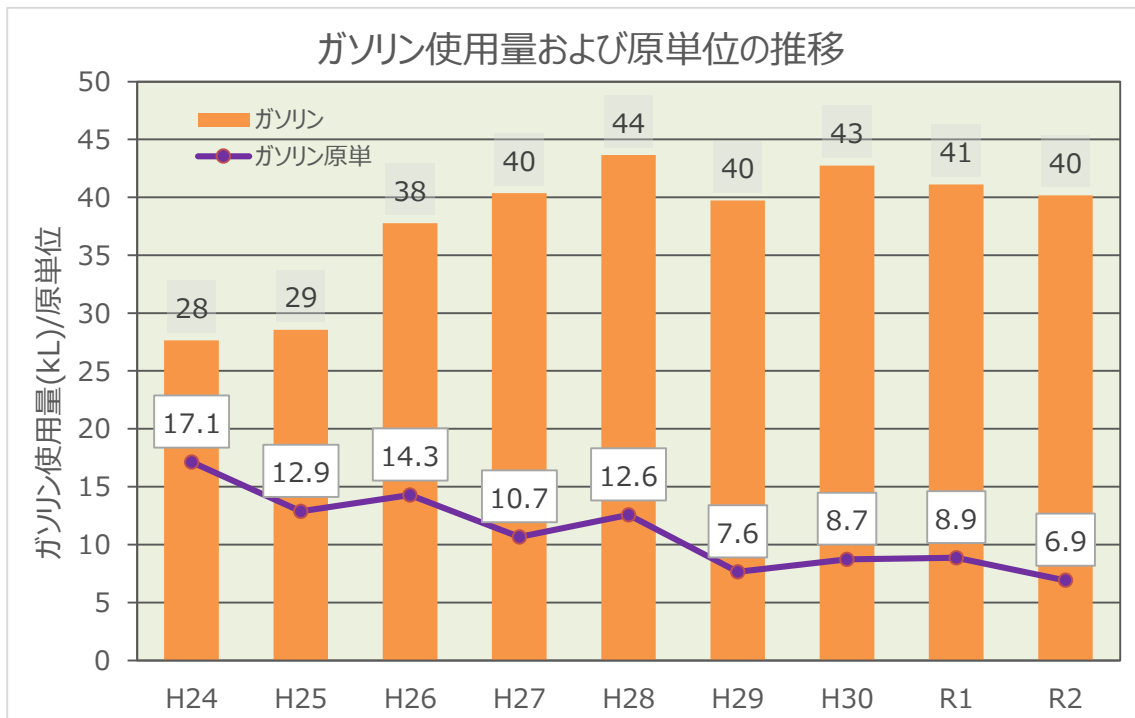
燃料の使用量は、解体工事現場の立地条件に大きく左右されるため、変動が大きくなっています。

今期は、大阪市都島区や茨木市などの大型工事があったため、重機や運搬車用の軽油が前年比68%増と大きく増加しました。燃料の原単位も1.34倍になっています。



(5) ガソリン使用量の推移

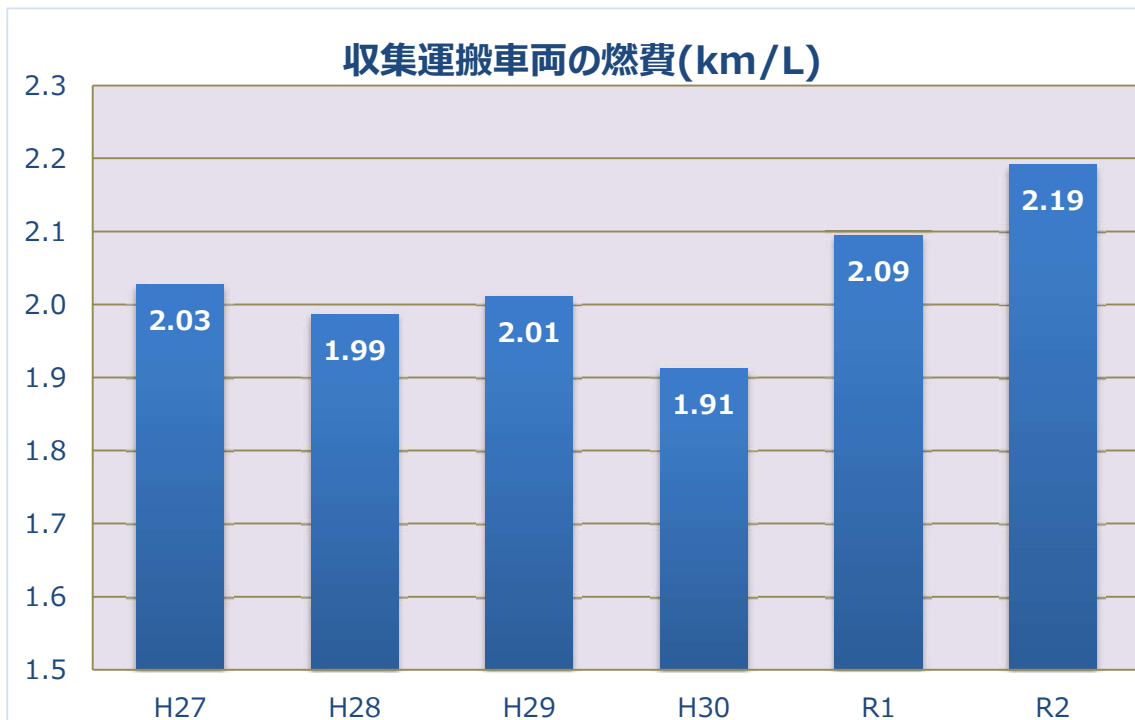
今期は工事件数が大きく増加したこともあり、営業活動よりも工事現場への往復が主体となって、ガソリン使用量は若干マイナスになりました。売上げが増加したため、原単位は前期比▲24%と大きく改善しました。



(6) 収集運搬車両の燃費推移

新車導入の効果があり、燃費が大きく改善しました。

収集運搬車の、最大積載量9t車から10t車への入れ替えが今期でほぼ終わりました。収集運搬の運行回数削減効果も出てきています。



6. 取組みの対象組織・活動

1) 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者名

株式会社 昇 和
代表取締役 佐藤 昇

(2) 所在地

本社 : 大阪府大阪市港区田中二丁目1番1号
北港リサイクルセンター : 大阪府大阪市此花区梅町二丁目4番114号
西向島リサイクルセンター : 兵庫県尼崎市西向島町111番5

■ 認証・登録範囲 (場所) : 本社、西向島リサイクルセンター、北港リサイクルセンター

(3) 環境管理責任者名・担当者連絡先

■ 環境管理責任者 : 佐藤 佑樹
■ 担当者 : 森井 友一
■ 連絡先 : TEL 06-6577-5555 FAX 06-6577-5565
■ E-mail : tomokazu.morii@showa.company

(4) 事業の内容

1. 産業廃棄物中間処理、収集運搬及びリサイクル
2. 土木工事、杭工事、解体工事、建築工事
3. 再生路盤材及び木材チップ製造・販売
4. 汚染土掘削・運搬

■ 認証・登録範囲(現在) : 全組織・全活動

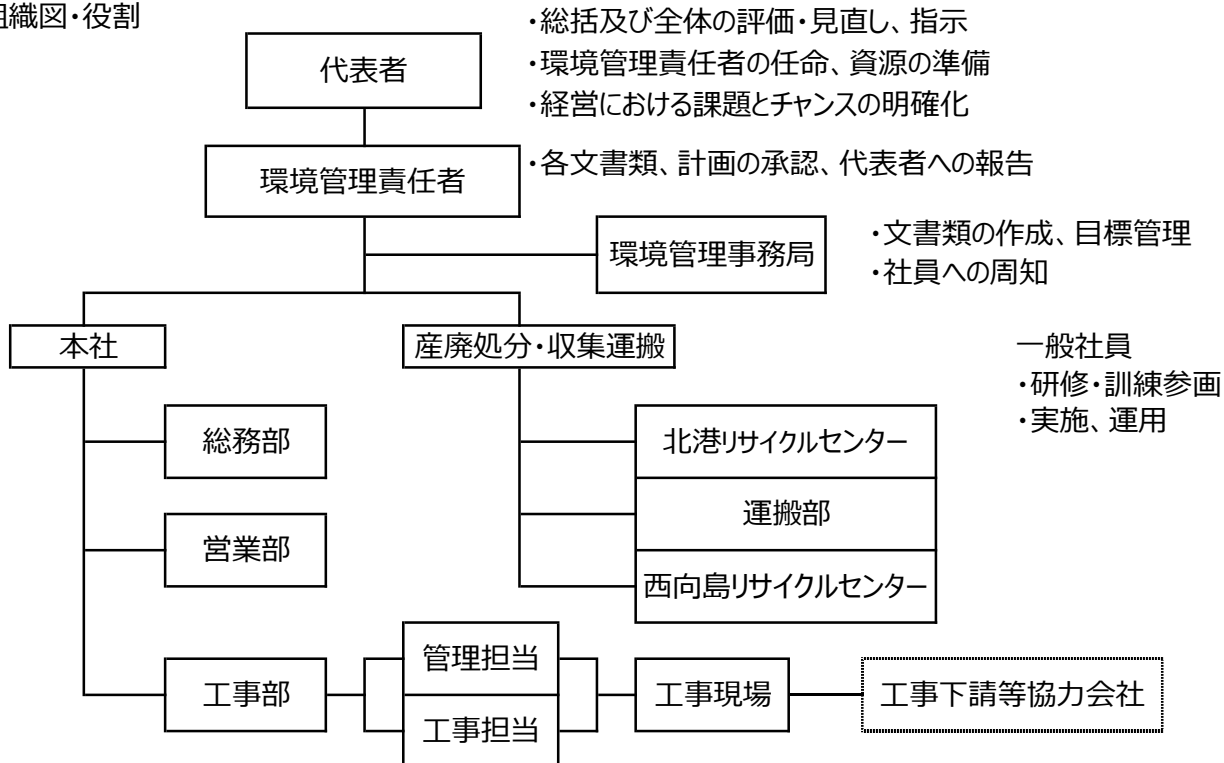
(5) 資本金

5,000万円

(6) 売上高 (令和2年9月～令和3年8月)

5,805 百万円 (うち産業廃棄物部門 1,146 百万円 解体事業部門 4,660 百万円)

(7) 組織図・役割



(8) 法人設立年月日

平成4年3月7日

2) 許可・登録の内容

1. 産業廃棄物処理業

産業廃棄物処理業															
管轄 官公庁 Ⓢ：優良認定	許可番号	許可年月日	有効期限	汚泥	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	ゴムくず	金属くず	ガラスくず	鋳さい	がれき類	積替・保管	
収集運搬業	Ⓢ大阪府	02700161700	令和3年09月30日	令和10年09月29日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
	Ⓢ兵庫県	02803161700	令和3年10月18日	令和10年10月17日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
	京都府	02600161700	平成28年12月14日	令和3年12月13日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
	Ⓢ奈良県	02900161700	令和3年10月21日	令和10年10月20日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
	Ⓢ岡山県	03300161700	令和3年11月09日	令和10年11月08日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
	滋賀県	02501161700	平成28年11月29日	令和3年11月21日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
	三重県	02400161700	平成28年12月01日	令和3年11月30日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
	Ⓢ岐阜県	02100161700	令和3年11月22日	令和10年11月21日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
	和歌山県	03000161700	平成28年10月21日	令和3年10月20日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
尼崎市	7112-161700	令和3年01月05日	令和8年01月04日	○	●	○	○	○	○	○	●	○	●	無 有	
※○石綿含有産業廃棄物を除く ●石綿含有産業廃棄物を含む 尼崎市の積み替え保管品目は、石綿含有産業廃棄物に限る															

処分業	大阪市	6620161700	令和1年12月25日	令和6年12月24日											
		中間処理			破碎										●
					破碎・切断		●	●	●	●	●	●			●
	大阪市の許可条件：石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物および水銀含有ばいじん等を除く														
Ⓢ尼崎市	07123-161700	令和3年9月1日	令和10年8月31日												
	中間処理方法ごとの種類			乾燥・破碎・整粒	●							●		●	
				破碎		●	●	●	●		●	●		●	
尼崎市の許可条件：石綿含有産業廃棄物を除く															

2. 建設業

管轄	国土交通大臣許可		
	許可番号	許可年月日	有効期限
	(特-3)第26341号	令和3年8月26日	令和8年8月25日
許可業種 (11業種)	土木工事、建築工事、大工工事、左官工事、とび・土工工事、石工事、屋根工事、タイル・レンガ・ブロック工事、鋼構造物工事、鉄筋工事、舗装工事、しゅんせつ工事、板金工事、ガラス工事、塗装工事、防水工事、内装仕上工事、熱絶縁工事、建具工事、水道施設工事、解体工事		

3) 事業の規模・施設等の状況

(1) 従業員数：83（役員、社員75名、パート3（4）名、臨時工4名） R3.8.21現在

(2) 事業所敷地面積

ア. 本社 : 707.6㎡
 イ. 西向島リサイクルセンター : 9,344.6㎡
 ウ. 北港リサイクルセンター : 23,926.9㎡

(3) 車両

ア. 収集運搬および工事車両の種類・台数：

スカニア R450 1台

スカニア R580 1台

ランゲンドルフ 28t ダンプトレーラー 1台

重機運搬トレーラー 3台

日野 10t ダンプ 12台

UD 10t ダンプ 2台

日野 15t セルフローダー 1台

UD 4t アームロール 2台

UD 4t ユニック 1台

いすゞ 4t ダンプ 2台

日野 4t ロールダンプ 1台

三菱 2t ダンプ 1台

三菱 3t ダンプ 1台



スカニア580 + 重機運搬トレーラー



スカニアR450 + ランゲンドルフ28tダンプトレーラー



北港処理センターのトラックスケールを通過する収集運搬車



運搬車両にはLOHAS×SDGsのマークを張り付けています。
なお、産業廃棄物収集運搬車の表示は荷台に記載しております。

イ. 作業車両：

日立 ZX1000K-3 (2.8m ³) (ハイリフト) 1台	コベルコ 135SRD (0.45m ³) 1台
日立 ZX480LCK (1.6m ³) 1台	キャタピラー CAT980M (ホイールローダ 5.7m ³) 3台
日立 ZX350LCK (1.2m ³) 1台	キャタピラー CAT972K (ホイールローダ 4.8m ³) 2台
キャタピラー CAT336E (1.2m ³) 1台	日立 ZW310A (ホイールローダ 4.0m ³) 1台
コベルコ SK350D (1.2m ³) 2台	日立 ZW100 (ホイールローダ 1.3m ³) 1台
日立 ZX250LCK (0.9m ³) 1台	日立自走式スクリーン VR512 1台
日立 ZX210K (0.7m ³) 2台	自走式スクリーン CS5X10 1台
コベルコ SK210DLC (0.7m ³) 1台	ユニキャリア FHD25 (フォークリフト 2.5t) 3台
コベルコ SK210D (0.7m ³) 3台	トヨタ 8FG15 (旋回式フォークリフト 1.5t) 1台
キャタピラー CAT320ERR (0.7m ³) 2台	コマツ BR380JG (ガラパゴス) 1台
キャタピラー CAT320E (0.7m ³) 2台	テレスタック HF1024 1台
キャタピラー CAT314ELCR (0.45m ³) 1台	



ウ. 営業車両：普通乗用車 16台

(4) 主要設備

ア. 北港リサイクルセンター（大阪市）

- ① 資源化再利用施設（乾燥・破碎・整粒）
- ② 破碎施設

許可番号	施設の種類	設置年月日	産業廃棄物の種類・処理能力		処理方式		
第422号	破碎施設	令和1年10月21日	がれき類	1,576t/日	破碎		
			ガラスくず	1,576t/日			
第423号	破碎・切断施設	令和1年10月21日	がれき類(廃ALC)	326.4t/日	金属くず	249.2t/日	破碎・切断
			木くず	108.6t/日	ガラスくず	220.5t/日	
			廃プラスチック	69.1t/日	紙くず	59.2t/日	
					繊維くず	23.6t/日	
						ゴムくず	



破碎施設

破碎・切断施設

岸壁の出荷施設

イ. 西向島リサイクルセンター（尼崎市）

- ① 資源化再利用施設（乾燥・破碎・整粒）
- ② 破碎施設

許可番号	施設の種類	設置年月日	産業廃棄物の種類・処理能力		処理方式		
912007	木くず又はがれき類の破碎施設	平成10年01月23日	がれき類(*)	2,340t/日	破碎・選別・篩い分け		
			汚泥・ガラスくず等(*)	2,340t/日			
915003	木くず又はがれき類の破碎施設	平成16年03月25日	木くず	27.2t/日	金属くず	15.4t/日	選別・破碎・篩い分け
					紙くず	23.3t/日	
915004	廃プラスチック類の破碎施設	平成16年03月25日	廃プラスチック類(*)	22.2t/日	ガラスくず(*)	64.8t/日	選別・破碎
					繊維くず	17.1t/日	
—	汚泥の天日乾燥施設	平成23年08月22日	汚泥(コンクリート残渣に限る)	2.6m ³ /日	天日乾燥		



一次破碎機（ジョークラッシャー）

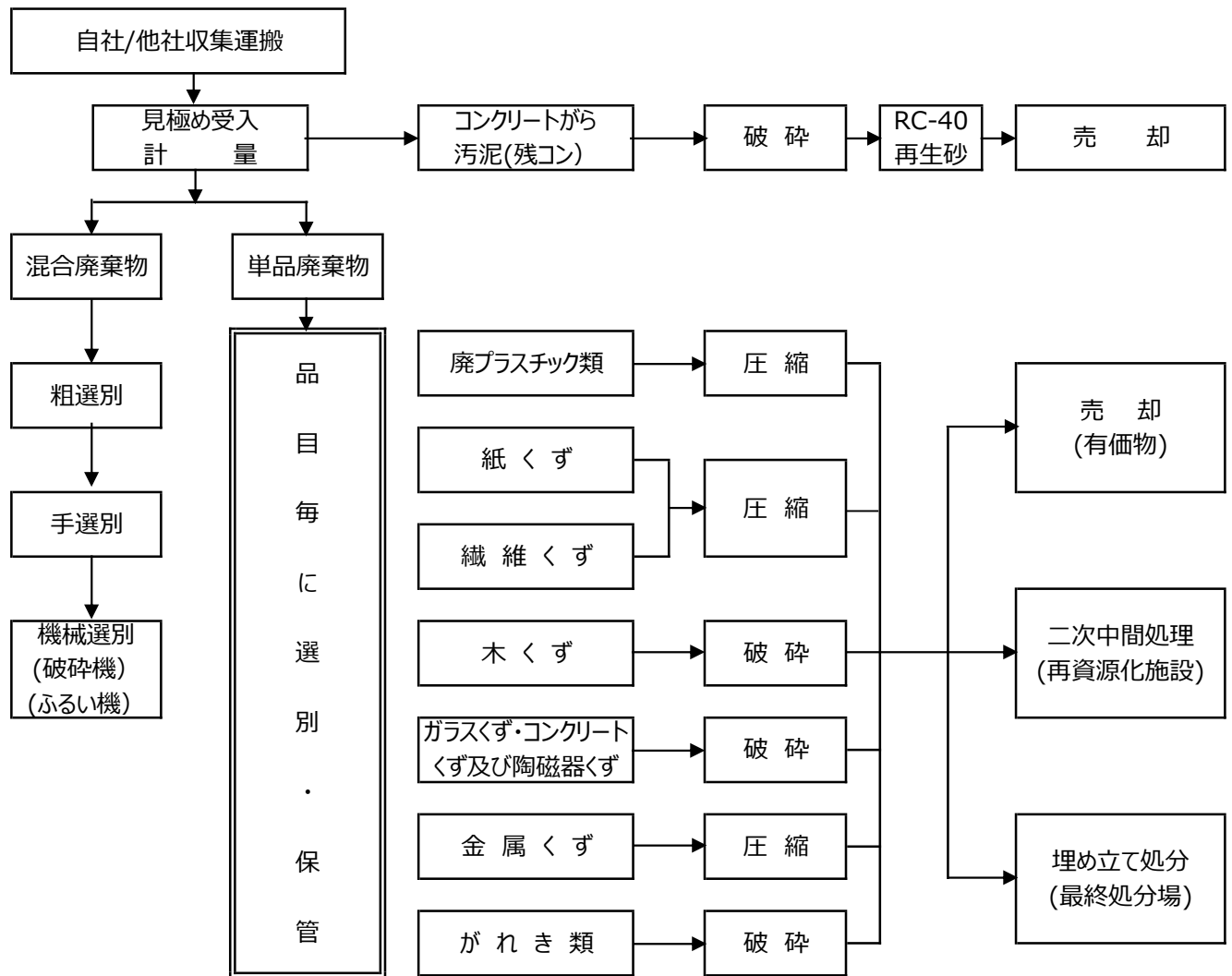


二次破碎機（インパクトクラッシャー）
磁力選別機（マグネットクラッシャー）

③ 積替え保管施設

許可番号	施設の種類	許可年月日	有効期限	所在地
7112-161700	積替え保管施設	令和3年1月5日	令和8年1月4日	尼崎市西向島町111番地の5
面積	14.8m ²	保管上限	積み上げることができる高さ	
		9,576m ³	屋内保管	
産業廃棄物の種類	①廃プラスチック類、②ガラスくず・コンクリートくず（工作物の除去等を除く。）及び陶磁器くず、③工作物の除去に伴って生じたコンクリートの破片その他これに類する不要物（①、②、③は、石綿含有産業廃棄物に限る）			

(5) 処理工程図



4) 処理実績 (令和2年9月~令和3年8月)

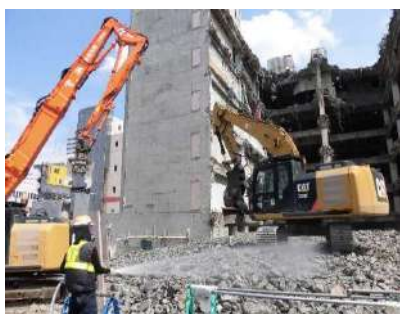
産業廃棄物取扱量	：	収集運搬量	：	351,433 t	(うち 北港RC 162,762 t)
					(西向島RC 188,672 t)
		中間処理量	：	393,188 t	(うち 北港RC 180,847 t)
					(西向島RC 212,341 t)
		残土量	：	96,950 t	(うち 北港RC 96,950 t)

5) 廃棄物処理料金

個別見積書による

6) 解体工事実績 (令和2年9月~令和3年8月)

公共工事	：	件数	：	21 件	受注高	：	1,441 百万円
					(年度内工事施工高	：	990 百万円)
民間工事	：	件数	：	82 件	受注高	：	6,774 百万円
					(年度内工事施工高	：	3,854 百万円)



7. 環境経営目標とその実績

7-1 環境経営目標

ユーティリティー使用量は、産業廃棄物関係および自社施工分の解体工事関係売上高を基準とした原単位を基準に設定しています。令和2年度は、令和元年度の実績値と従来の目標値をもとに基準値を見直しました。

【**全社**】 産業廃棄物処分業、解体業を含む全社分、年間売上高ベースとしています。

«電力に係る二酸化炭素の排出係数は、関西電力の平成26年度の調整後排出係数0.523kg-CO₂/kWhを用いています。»

項目 単位	R元年目標値	R元年9月～8月	R2年9月～8月	R3年9月～8月	R4年9月～8月
		(実績値)	(新基準)	(削減率1%)	(削減率2%)
二酸化炭素排出量 kg-CO ₂ / 売上高 (百万円)	1,049.0	484.0	733.8	726.5 (▲1%)	712.0 (▲2%)
電力の使用量 kWh / 売上高 (百万円)	185.6	105.9	123.0	121.8 (▲1%)	119.3 (▲2%)
ガソリンの使用量 ℓ / 売上高 (百万円)	15.9	8.9	10.0	9.9 (▲1%)	9.7 (▲2%)
軽油の使用量 ℓ / 売上高 (百万円)	347.0	158.0	250.0	247.5 (▲1%)	242.6 (▲2%)
一般廃棄物排出量 袋 / 売上高 (百万円)	0.185	0.082	0.100	0.099 (▲1%)	0.097 (▲2%)
水使用量 m ³ / 売上高 (百万円)	0.176	0.395	0.250	0.248 (▲1%)	0.243 (▲2%)
グリーン購入 購入金額率 / 年	81%	93%	90% 以上	90% 以上	90% 以上
再生路盤材リサイクル率 %	99%	100%	99% 以上	99% 以上	99% 以上

※ 環境配慮サービスは「再生路盤材リサイクル率」の増加を実施します。

※ 化学物質の取扱はありません。

【北港リサイクルセンターおよび西向島リサイクルセンターの合計量】

※電力に係る二酸化炭素の排出係数は、関西電力の平成26年度の調整後排出係数0.523kg-CO₂/kWhを用いています。▶

項目 単位	R元年目標値	R元年9月～8月	R2年9月～8月	R3年9月～8月	R4年9月～8月
		(実績値)	(新基準)	(削減率1%)	(削減率2%)
二酸化炭素排出量 kg-CO ₂ / 産廃売上 (百万円)	2,228	1,589	1,736	1,718 (▲1%)	1,684 (▲2%)
電力の使用量 kWh / 産廃売上 (百万円)	729	509	600	594 (▲1%)	582 (▲2%)
軽油使用量 ℓ / 産廃売上 (百万円)	722	525	550	545 (▲1%)	534 (▲2%)
収集運搬車燃費km/L	2.01	2.09	2.05	2.07 (+1%)	2.11 (+2%)
水使用量 m ³ / 産廃売上 (百万円)	0.559	1.989	1.250	1.238 (▲1%)	1.213 (▲2%)
再生路盤材リサイクル率 %	99% 以上	100%	99% 以上	99% 以上	99% 以上

※ 環境配慮サービスは「再生路盤材リサイクル率」の増加を実施します。

※ 化学物質の取扱はありません。

【解体工事関係】

項目 単位	R元年目標値	R元年9月～8月	R2年9月～8月	R3年9月～8月	R4年9月～8月
		(実績値)	(新基準)	(削減率1%)	(削減率2%)
二酸化炭素排出量 kg-CO ₂ / 自社施工工事 (百万円)	1,054	470	646	640 (▲1%)	627 (▲2%)
軽油使用量 ℓ / 自社施工工事高 (百万円)	408	182	250	248 (▲1%)	243 (▲2%)
定性的評価 解体時に発生する環境影響を回避ないし削減するための手順書に基づいて評価する		活動項目の質的向上を図る	活動項目の質的向上を図る	活動項目の質的向上を図る	活動項目の質的向上を図る

※ 解体工事関係の燃料使用量については、受注物件ごとに大きく変動します。

7-2 環境経営活動の実績と評価

【全社】 「令和2年9月～令和3年8月」

「電力に係る二酸化炭素の排出係数は、関西電力の平成26年度の調整後排出係数0.523kg-CO₂/kWhを用いています。」

基準年度欄の数値は、上段：排出量、下段：原単位、実績値欄の数値は、上段：排出量、中段：実績原単位、下段：原単位目標値に対する増減率です。

項目 単位	R1年度実績値 (基準値)	R2年度 原単位目標値	R2年度実績値 (増減率%)	評価
全社売上高 (百万円)	4,636		5,805	原単位は売上高百万円あたりの数値になっています。売上高は前年比の18%増となりました。
CO ₂ 排出量 kg-CO ₂	2,009,080		3,606,152	○ 目標を達成しました 原単位の目標値は達成しましたが、二酸化炭素排出量は前期比1.79倍に増加しました。主力の工事現場がいずれもやや遠方にあり、大規模の解体工事であったためです。
kg-CO ₂ / 売上高	484	734	621	
原単位改善率			(▲15.3%)	
電力の使用量 kWh	490,721		628,807	○ 目標を達成しました 全社の消費電力は北港リサイクルセンターが通期操業しましたので、前年比28%増加しました。原単位も、目標値はクリアしましたが、前期比2%のマイナスとなりました。
kWh / 売上高	105.9	123.0	108.3	
原単位改善率			(▲11.9%)	
ガソリンの使用量 L	41,103		40,171	○ 目標を達成しました 営業車を最新の仕様車に入れ替えたことから、使用量が前期比3%減少し、原単位も23%の改善となりました。
L / 売上高	8.87	10.00	6.92	
原単位改善率			(▲30.8%)	
軽油の使用量 L	731,950		1,231,688	○ 目標を達成しました 軽油の使用量は、ダンプ車の更新を機に11t積車を導入しましたが、茨木市の解体工事と、その工事から発生するコンクリートがらの運搬が大量に発生したため、前年比1.68倍と大きく増加しました。設定した原単位はクリアしましたが、前期比で1.34倍となっています。
原単位 L / 売上高	158	250	212	
原単位改善率			(▲15.1%)	
一般廃棄物排出量(袋)	379		375	○ 目標を達成しました 売り上げが増加したため、原単位が改善しました。
袋 / 売上高	0.082	0.100	0.065	
原単位改善率	減少		(▲35.4%)	
水使用量 m ³	1,830		1,174	○ 目標を達成しました。 北港リサイクルセンターの日本庭園への植栽への散水がありましたが、全社売上高が大きく伸びたため、原単位は新目標値の80%にとどまりました。
m ³ / 売上高	0.395	0.250	0.202	
原単位改善率			(▲19.1%)	
グリーン購入 円	658,807		479,938	○ 目標を達成しました グリーンマークつきの製品を意識して購入するようにした結果、目標値90%以上、および前年度実績値93.2%から向上しました。
うちグリーン品購入額	613,844		468,237	
グリーン品購入比率	93.2%	90% 以上	97.6%	
購入比率改善率			(+7.6%Pt)	
再生路盤材リサイクル率	100%	99% 以上	100%	○ 目標を達成しました 当社施工の解体工事現場からのコンクリートがらを中心に再生処理を行っていることから、量の多寡ではなくリサイクル率を目標としています。再生品はすべてリサイクルしております。
%	リサイクル率 100%の維持			

※ 燃料油は今季から軽油のみとなっています。

※ 増減率は目標数値に対する増減割合を示します。

7-2 環境経営活動の実績と評価（つづき産廃業）

【北港リサイクルセンターおよび西向島リサイクルセンター合計】

「電力に係る二酸化炭素の排出係数は、関西電力の平成26年度の調整後排出係数0.523kg-CO₂/kWhを用いています。」

基準年度欄の数値は、上段：排出量、下段：原単位、実績値欄の数値は、上段：排出量、中段：実績原単位、下段：原単位目標値に対する増減率です。

項目 単位	R1年度実績値 (基準値)	R2年度 新目標値	R2年度実績値 (増減率%)	評価
産廃部門売上高 (百万円)	865		1,146	原単位は売上高百万円あたりの数値になっています。売上高は基準年に対し2.2倍になっています。
CO ₂ 排出量 kg-CO ₂	1,376,189		1,448,581	○ 目標を達成しました
kg-CO ₂ / 産廃売上	1,589	1,736	1,587	
原単位改善率			(▲8.6%)	
電力の使用量 kWh	440,631		579,047	○ 目標を達成しました 従来の目標値≒700と元年度の実績値の中間値を目標としましたが、元年度とほぼ同じ原単位となりました。
kWh / 産廃売上	509	600	505	
原単位改善率			(▲15.8%)	
燃料の使用量 L	454,281		650,920	× 目標未達となりました 軽油の使用量は、ダンプ車の更新を機に11t積車を導入しましたが、大阪市都島区および茨木市の解体工事と、その工事から発生するコンクリートがらの運搬が大量に発生したため、前年比1.68倍と大きく増加し、設定した原単位を上回りました。
L / 産廃売上	525	550	568	
原単位改善率			(+3.3%)	
収集運搬車燃費	2.09	2.05	2.19	○ 目標を達成しました 燃費は、本年度で新車への入れ替えをほぼ終了したため、目標を大幅にクリアしました。
km/L			(+6.9%)	
水使用量 m ³	1,830		1,174	○ 目標を達成しました 過去の実績データと北港処理センターの日本庭園への散水による増加を考慮して目標値を設定しました。運搬車両や重機の洗浄水が多くなりましたが、目標値をクリアしました。 今後も節水を心がけるよう再徹底を行います。
m ³ / 産廃売上	1.989	1.250	1.025	
原単位改善率			(▲18.0%)	
再生路盤材リサイクル率	100%	99% 以上	100%	○ 目標を達成しました。 当社施工の解体工事現場からのコンクリートがらを中心に再生処理を行っていることから、量の多寡ではなくリサイクル率を目標としています。 基本的に再生品はすべてリサイクルしています。
%	リサイクル率 100%の維持			

※ 増減率は目標数値に対する増減割合を示します。

7-2 環境経営活動の実績と評価（つづき解体業）

【解体工事関係】

項目 単位	R1年度実績値 (基準値)	R2年度 原単位目標値	R2年度実績値 (増減率%)	評価
解体工事売上高 (自社施工分)	1,397.6		2,271.1	原単位は売上高百万円あたりの数値になっています。
CO ₂ 排出量 kg-CO ₂	656,279		1,501,337	× 目標未達成となりました。
kg-CO ₂ / 産廃売上	470	646	661	
原単位改善率			(+2.3%)	
燃料油の使用量 L	253,871		580,768	× 目標未達成となりました。 今期は頑丈なコンクリート造りの建物解体に重機の燃料が嵩んだため、目標原単位をオーバーしました。 建物の構造に大きく依存するため、目標原単位を設定することが適切なのか、再検討いたします。
L / 産廃売上	182	250	256	
原単位改善率			(+2.3%)	
定性的評価 解体時に発生する環境 影響を回避ないし削減す るための手順書に基づい て評価します	リサイクルセン ターから良好で あるとの評価を 引き続きいただ いています。	リサイクルセン ターから優秀の 評価をもらう。	リサイクルセン ターから良好で あるとの評価を 引き続きいただ いています。	解体工事では、常に近隣住民や元請会社、発注者の目が光っており、それだけに社内的にも厳しく指導しています。 社長から、「解体工事業は世間からは3K職場のように見られがちである。当社がそのような見方を変えさせる見本となる企業となるように、謙虚さを常に持って業務にあたるように。」と厳しく指導しています。 施工管理者制度で社員のステータスが上がり、自社工事はもちろんですが、外注工事についても、下請業者に対して厳しく指導を行っていますので、関係者から引き続き高い評価を得ています。 本年度も建災防や竹中土木等から表彰状を4件いただきました。無事故・無災害で工事を完了したことに関してですが、工事現場周辺の環境管理もよくできたことが含まれています。 今後もこの状況を継続できるように身を引き締めて業務に臨んでまいります。
	①住民からの苦情はありませんでした。	①住民苦情なし	①住民からの苦情はありませんでした。	
	②元請からの評点は最良点を継続していただきました。	②元請評点アップ	②元請からの評点は最良点を継続していただきました。	
	③省燃費運転はよくできました。	③省燃費運転の徹底	③省燃費運転はよくできました。	

※ 電気および水道の使用については、元請会社一括管理になっているため当社分を把握できていません。

※ 上記の表において自社解体売上としているものは自社で解体工事を直接行った工事のうち、本年度工事施工分を計算して算出しています。

1. 年度内に着工し完工したものは請負金額

2. 複数年度にまたがって工事したものについては、請負金額×(年度内工事日数/全工事日数)により計算

3. 日数には祝祭日休日も含んでいます。

※ 廃材の搬出量については、廃棄物関係で把握しています。

8. 主要な環境活動計画の内容と取組結果の評価

取組み項目は次年度も同様で行います。

(令和2年9月～令和3年8月)

環境目標	取組み項目	評価(○：良好 △：不十分 ×：未実施)	
CO ₂ の削減	-	-	
電力使用量の削減	取組み事項の説明(教育)	○	本年度も9月、1月、4月に全社員を対象に取組み状況および今後の進め方について教育を実施しました。
	不要時の消灯	○	不要な場所や休憩時の消灯がほぼ徹底できました。
	運転停止時の電源オフ	○	昼休憩時や終業後は電源オフが徹底してきました。
	エアコン温度管理の徹底	○	エアコンの使用を控えることができました。
	エアコン点検記録	○	日常目視点検及び月次簡易点検を行いました。
	削減目標の達成結果	○	削減目標を達成しました。今後も省電力推進手順書に基づいてこまめな活動を推進して更なる削減を目指します。
燃料使用量の削減	取組み事項の説明(教育)	○	本年度も9月、1月、4月に全社員を対象に取組み状況および今後の進め方について教育を実施しました。
	車両の点検整備の徹底	○	月次点検、日常点検を徹底して実施しました。
	車両の走行距離の低減	○	収集運搬経路をあらかじめ調査し、無駄な走行をしないようにしました。
	エコドライブ・省燃費運転の徹底	○	エコドライブ、省燃費運転の教育を実施し、運転手に実践を徹底しました。また燃費データを車両ごとにとり、燃費の改善を継続して進めていきます。
	削減目標の達成結果	×	北港リサイクルセンターが通期で操業に寄与したことから、工事現場からの産廃や残土の受け入れ量が大幅に増加しました。自社工事件数が前年度18件から14件に減少しましたが、工事金額は1.6倍に増加し、燃料の使用量も前年比1.7倍に増加しました。 運転手の意識向上とダンプ車の入れ替えを本年度集中的に行った結果、燃費はR元年度2.09km/Lから今年度2.19km/Lと大幅に改善しました(目標値2.05km/L)。
廃棄物排出量の削減	取組み事項の説明(教育)	○	本年度も9月、1月、4月に全社員を対象に取組み状況および今後の進め方について教育を実施しました。
	廃棄物の分別の徹底	○	産業廃棄物の分別は、重機を利用し粗分けした後、手選別によりさらに分別精度を上げており、ゼネコン業者からも高い評価を受けています。 一般ごみの減量を図るため、昼食は給食業者の弁当を引き続き利用し、空容器の発生を抑制しています。
	リサイクル用途の開拓	○	新たな用途開拓を進めました。
用水使用量の削減	洗車時の節水の徹底	○	従来以上に節水を指示徹底しました。洗車用水にも雨水を積極的に使用するよう徹底していきます。
	雨水の再利用	○	北港および西向島リサイクルセンターでは雨水を大型地下槽に貯めて、破碎時の散水および収集運搬車のタイヤ洗浄に使用しています。
	漏水の点検	○	日常点検で確認しました。
	削減目標の達成結果	○	原単位を令和元年度の実績原単位と目標値の平均値としました。 収集運搬量や処分量が前年比約1.5倍になるなど、予想を大きく上回りましたが、想定原単位を達成することができました。
グリーン購入の拡大	環境ラベル認定等製品の優先的購入	○	購入品目の見直しを徹底した結果、グリーン比率が前年度93%から97%に向上しました。今後も比率アップを目指して購入品の調査検討を継続していきます。
再生路盤材リサイクル率99%以上確保	顧客新規開拓	○	再生路盤材の販売量(有償販売分)は前年度とほぼ同量でした。引き続き有償販売先の開拓に努めてまいります。
本来業務の環境活動の推進	関係企業とのコミュニケーション推進	○	業界団体の役員に就任し諸活動を行うとともに、元請け会社や協力会社との諸会合に積極的に参加しました。 ゼネコンから優良下請け業者として感謝状をいただきました。
	地域活動への積極的参加	○	本社、リサイクルセンターなど会社周辺道路の清掃を実施するとともに、また、本社およびリサイクルセンターの出入口付近にAEDを設置し、社外の方も利用できるようにしています。また、グローバルに展開されているSDGsに関し、当社も社会基盤の整備等貢献していくべく、活動を開始いたしました。

9. 環境・安全への取組み



職長会

毎週1回、工事部・営業部・管理部全員が集合し、本社大会議室の大型モニターで各現場の予定・進捗・イベントを現場責任者が発表するとともに、危険個所の発見に努めています。

令和2年度はコロナ禍拡大のため、自粛する形で60%の開催率となりました。



ダンプ会議

毎月1回、自社・庸車のダンプ運転手・産業廃棄物処理施設責任者が集合し、産業廃棄物処理施設の会議室にて兵庫県警やトラック協会から資料をもとにエコドライブや安全講習を行っています。



環境・安全協議会（昇友会）

毎月1回、本社会議室にて環境・安全協議会を行っています。令和2年度は、コロナ対策のため、年度後半の7月と8月の2回の開催に止まりました。開催できなかった月は、書面を配布し、必要事項の連絡徹底を図りました。

また、毎月2回、営業部・管理部・昇友会会員2名による、各現場の抜き打ちパトロールを行っています。



安全大会

年1回、協力業者・関係者・社員合わせて約130名程度で安全標語や現場の安全表彰を行います。また、ゼネコン様の安全担当者や安全に関する専門家の方々をお招きし、ご講話いただいています。

写真は令和元年度の安全大会の様子です。なお、令和2年度および令和3年度の安全大会は新型コロナウイルスの影響で中止し、安全大会資料およびノベルティーグッズを配布いたしました。

10. 主な環境関連法令への違反、訴訟等の有無

適用される法令	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	遵守確認
廃棄物処理法	産業廃棄物の収集・運搬、処分にかかる許可手続き、保管基準、処理基準、委託基準の遵守	○
自動車NOx・PM法	排ガス基準の遵守	○
オフロード法	重機入れ替え時に排ガス基準適合車の購入	○
大阪府生活環境の保全等に関する条例	流入規制の遵守 大気汚染防止法の特定粉塵排出等作業届出が必要な工事で「石綿の使用面積が50㎡以上」の場合石綿濃度の測定計画の届出義務あり。また、「石綿含有成形板」の場合は、使用面積が1,000㎡以上の場合「石綿排出等作業」の届出義務あり。	○
兵庫県環境の保全と創造に関する条例	流入規制の遵守 大阪府と同様であるが、床面積が1,000㎡以上あるいは、「石綿若しくは石綿をその重量の0.1%を超えて含有する建築材料を使用し、床面積が80㎡以上」の場合条例に基づく届け出必要。	○
下水道法	排水基準の遵守	○
大気汚染防止法	粉じん発生基準の遵守 特定粉じん排出等作業届出（吹付け石綿、石綿を含有する断熱材・保温材・耐火被覆材がある場合）	○
土壌汚染対策法	①3,000㎡以上の土地の形質変更を予定している工事 ②有害物質を取り扱う工場・事業場の解体工事 ③法及び条例に基づく区域指定等を受けた土地の工事 汚染土壌の搬出計画届出、運搬基準の遵守	○
建設リサイクル法	建設廃棄物のリサイクル計画、工事届出義務の遵守 特定建設資材廃棄物（コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材）は再資源化の義務あり	○
労働安全衛生法	アスベスト等を使用した建築物の解体工事基準の遵守 2m以上の高所作業得時の墜落制止用器具「フルハーネス」の着用遵守	○
石綿障害予防規則	アスベスト等を使用した建築物の解体工事基準の遵守	○
騒音規制法	騒音に係る特定建設作業（法、条例に基づく届け出）基準の遵守	○
振動規制法	振動に係る特定建設作業（法、条例に基づく届け出）基準の遵守	○
PCB特別措置法	PCB含有の恐れがある機器等の保管処分の規制の遵守	○
フロン排出抑制法	フロンを使用している業務用エアコンや冷凍冷蔵機器の有無確認・点検等の規制遵守、対象機器の定期点検実施と記録の保存	○
建設業法	解体工事業を含め各種業種の基準の遵守 令和2年10月1日より適用の「社会保険の加入に関する下請指導ガイドライン」の遵守	○

環境関連法規への違反・訴訟はありません。なお、関係当局などからの違反等の指摘は過去3年間ありません。

1 1. 有資格者一覧

資格名		資格名	
一級建築士	1名	二級建築士	2名
一級建築施工管理技士	3名	二級建築施工管理技士	2名
一級土木施工管理技士	3名	二級土木施工管理技士	1名
一級建設機械施工管理技士	2名	第二種電気工事士	1名
解体工事施工技士	19名	危険物取扱者免状	1名
宅地建物取引主任者	1名	衛生管理者	1名
無線従事者免許第三級	2名	無線従事者免許第四級	5名
監理技術者	14名	一級とび技能士	1名
地山の掘削作業主任者	17名	土止め支保工作業主任者	17名
足場の組立て等作業主任者	14名	コンクリート工作物解体等作業主任者	13名
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	14名	石綿作業主任者	12名
車両系建設機械運転（整地、解体等）	51名	フォークリフト1t以上	15名
玉掛け1t以上	23名	ガス溶接	17名
ダイオキシン類業務に係る作業指揮者	6名	特別管理産業廃棄物管理責任者	4名
破砕・リサイクル施設技術管理者	2名	土壌環境保全士	1名
廃棄物管理士	2名	一般主任計量者	1名
運行管理者	5名	二級自動車整備士	1名
安全運転管理者	1名	労働安全コンサルタント	1名

資格保有者合計 448名 表に記載のない資格を含む

2021年（令和3年）8月現在

※ 着色は新規資格名または資格者が増加したものを示しています。

1 2. 総括（代表者による全体評価と見直し・指示）

令和2年度は売上高が前年比25%増の58億円となりました。解体工事は23%の増加、処分業は32%の増加になりました。前年度解体工事を先延ばししていた案件が実行されたことや、BCP計画等に伴うインフラ整備に向けた工事が増加している影響が出たものと考えられます。

- ① 全社の軽油の使用量は前期比+68%と大幅増となりました。売上高も+28%増加しましたが、原単位換算では前期比34%の増加と悪化しました。ガソリンにつきましては、使用量が前期比3%減少したこともあり、原単位換算では前期比23%の改善となりました。
業務量が増加して忙しい中ですが、当社社員および協力会社社員は、SDGsの目標12と13の達成のために、引き続きエコドライブを率先実行して、燃料の節約と二酸化炭素排出削減に貢献し、地域住民から感謝されるようにいたします。
- ② 処分業では、大型工事案件のコンクリートがらが大量に発生したため、収集運搬量、処分量ともに前年比1.4倍を超える大幅増となりました。
また、収集運搬車の燃費は目標値2.05km/Lに対し、実績2.19km/Lと大幅に改善できました。これは、運転者の省燃費運転意識の向上と運搬車の老朽更新を順次進めてきたためです。これで良しとするのではなく、今後も省燃費運転に工夫を加え、燃料使用効率をさらに向上してまいります。
- ③ 解体工事では、当社の工事実績が評価され、引き続き大型工事案件の受注が増加しています。解体工事関係の重機の更新も引き続き進めています。工事の安全管理実績に対し、延べ4名が建災防、(株)竹中工務店、(株)竹中土木から表彰を受けました。
- ④ グリーン購入では、社員の意識向上があり、おかげさまでグリーン比率が97%となりました。令和元年度に比べ約4ポイント向上しました。
コピー用紙の使用量は前年度比6%の減少でした。社内文書にはコピーの裏紙使用などを再度徹底していき用紙の節減を徹底していきます。

令和2年度はおかげさまで受注件数が多く、大変忙しい一年になりました。忙しい中であっても、経費の節減を徹底し、社内外では常に「絆」を大切にしてお応じていきます。こういう時期だからこそ、安全管理にはよりいっそう気を配り、安全操業を継続してまいります。

環境経営目標、経営計画について今年度は上記のとおり評価できる結果であり、変更の必要はなく、実施体制についてもうまく機能しており、変更の必要性はない。

1 3. 次年度での取り組み



(1) 当社はSDGsの課題解決を重要な経営課題と捉え、事業活動・企業活動を通じて、国際社会が追求する社会課題の解決に貢献することで企業価値の向上と持続的な社会の実現に取り組みます。



(2) 運搬車両の燃費の目標値を、令和3年度は2.07km/Lとして燃費向上に取り組みます。
建設機械に用いる燃料は、軽油代替品であるGTL（Gas to Liquid）燃料を今後も継続利用し、環境負荷の低減を図ってまいります。



(3) 解体工事関係では、大型物件、中小物件の別なくあらゆる物件に真剣に取り組んでまいります。そして、各ゼネコンからの高評価・表彰をバネにして、今後も引き続き受注の拡大を図るとともに、原単位の改善を進めます。



(4) 上水の使用量は事業の拡大に伴い大幅に増加していますので、次年度の原単位目標値は「0.248m³/全社売上高百万円」と設定して管理いたします。



(5) グリーン購入比率は97%で目標を達成しました。今後はこの水準を維持しながら、グリーン品を見逃していないか精査の上発注するように心がけてまいります。



(6) 再生路盤材の販売は、運搬船の活用が可能になったので、大量に安価に運搬することができるようになりました。遠方の顧客にも良質な再生路盤材を提供するべく顧客の開拓をしてまいります。
また、建設発生土を利用し採石場開発跡地の緑化事業に良質な土を提供していきます。



(7) 社員教育を充実するとともに、資格取得を奨励していきます。
社員表彰・協力会社表彰をひきつづき安全大会の中で実施します。



(8) 当社では、解体工事とそれによって発生する産業廃棄物の処理、建設残土の処理までワンストップで行うことができます。この特徴を生かして、顧客、社員、協力会社一丸となってサービスを提供していきます。